



ゆめ通信

2017.3.1. No.91

発行 日本養豚事業協同組合

〒104-0033 東京都中央区新川2-1-10
八重洲早川第2ビル6階

TEL.03-6262-8990 FAX.03-6262-8991

稲吉弘之理事長勇退記念感謝の夕べ 開催

昨年2月に開催した第15回通常総会に於いて、組合発足当時から15年に亘り理事長を勤められた稲吉弘之氏が、理事長を退任されました。在任中は、その類まれな着想と行動力を持っていた組合経営、そして日本養豚協会の要職に就いての業界活動により、厳しい経営環境のなかで多くの組合員をはじめ養豚家が多大なる恩恵を受けて参りました。

そのご尽力に感謝し、1月20日第一ホテル東京シーフォートに於いて、「稲吉弘之理事長勇退記念感謝の夕べ」を開催しました。また、稲吉弘之氏自ら執筆された単行本『私の養豚人生—素晴らしき仲間—』が発行される運びとなり、その出版記念祝賀会も兼ねた宴となりました。

来賓、組合員、賛助会員など業界関係者約180名が出席され、会場には組合員や賛助会員の方々から贈られたお祝いの花が所狭しと並び、お祝いとして届いたお酒も振る舞われました。

二代目・青年部長の山本孝徳氏（㈲アクティブビッグ・代表取締役）の司会進行で会がスタートし、主催者代表として壇上に上がった松村理事長は、15年に亘り組合を引っ張ってこられた稲吉氏の功績に謝辞を述べると同時に、稲吉氏の著書が発行される運びとなった喜びを語りました。

来賓の大野高志氏（農林水産省生産局畜産部長）、中瀬信三氏（中央畜産会・元副会長）、弦巻恒三氏（フィード・ワン株式会社・代表取締役会長）、志澤勝氏（一般社団法人日本養豚協会・会長）から祝辞を頂戴した後、原田英男氏（一般財団法人畜産環境整備機構・副理事長）に乾杯の音頭を取っていただきました。

参加者を代表して事務局より記念品の贈呈後、稲

吉氏が登壇し、「脱サラして養豚を起業した昭和53年から約40年間、全豚や豚事協をはじめ様々な業界組織の要職に就き身に余る重責を担ってきましたが、多くの同志と知恵を出し合い、支え合った活動の積み重ねでした。豚事協の理事長退任後に自叙伝の執筆を依頼され、自分の生きてきた軌跡を振り返りながら纏めてみて、改めて自分の人生は本当に幸せであったと感じました。今後国際化の進展は待たなしに進み、更なる貿易の自由化が進むでしょう。JPPAの養豚大学校、豚事協の若手経営者育成塾など学ぶ場は整いましたので、若者の更なる精進を強く望みます」とあいさつされました。

その後、塩田忠氏（公益財団法人畜産近代化リース協会・理事）、大井宗孝氏（日本養豚開業獣医師協会・代表理事）、村井弘一氏（協同飼料株式会社・元代表取締役社長）、山本一郎氏（獣医師）、年に2～3回は夫婦一緒に旅行をされるという田代誠一・ミサ子ご夫妻、水落東洋子氏、中田博幸・康代ご夫妻など、稲吉氏とご縁の深かった方々からも祝辞を頂戴し、盛会裏に終了しました。（東野）



養豚経営勝ち残りビジネスモデル 共有シンポジウム開催

平成29年1月20日TKP品川カンファレンスセンター ANNEXで開催された日本養豚事業協同組合「養豚経営勝ち残りビジネスモデル」共有シンポジウムは、稲吉弘之塾長より我が国の勝ち残りのビジネスモデルの構築を目標とした塾の成り立ちが話され、本日披露するビジネスモデル（未定稿）は、組合員の皆様が個々の経営状況を加味して完成するものとの開会挨拶により始まりました。

小規模モデルを代表して「スリーセブン方式の採用により生産性を上げ家族中心で経営改善」と題して有限会社田代養豚場田代久祐氏よりグループシステムへの変遷と移行への苦労談が語られ、疾病対策の確立等により離乳後事故率が3%で維持できている実績及び衛生費の推移が示されAI・AOの効果が披露されました。

「作業の集中化・共有化、休暇が取り易い、疾病コントロールがし易い、事故率の低減」等のメリットに加え、「分娩舎が多く必要、清浄グループからの逸脱母豚の管理、離乳子豚の管理の難しさ、精液の管理」等グループシステムの確立のための留意事項が詳細に説明されました。

有限会社ロッセ農場代表取締役社長栗木貢男氏の講評では、情報・施設等のコントロールは比較的し易いが、繁殖のコントロールは難しいなか、3-7システムでコントロールできていることは素晴らしい。優秀な獣医師のアドバイスを受けることの重要性が説かれ、これからのステップアップに期待を寄せる激励のコメントがなされました。

続いて、中規模モデルを代表して「生産性・作業性の悪い農場フローを抜本整理し経営改善を目指す」と題して有限会社柴畜産柴香代子氏より以前は漠然とした思いだけであったが、塾の学習の中で具体的な計画が立てられたことの感謝の言葉があり、10年後を見据えた土地の取得・資金調達・しくみの構築等の増頭経営計画が披露されました。

栗木貢男氏の講評では、次のステップ大規模化に向けての労務対策・キャッシュフローの重要性が指摘

され、相談役の有限会社サミットベテリナリーサービス石関紗代子獣医師からはバイタリティある行動力によって経営改善がなされたことが披露され、未来に夢のある経営を目指してほしいとの講評がなされました。

さらに、大規模モデルを代表して「疾病リスクを分散し枝肉生産の効率化を追求できる生産モデルを目指す」と題して曾我の屋農興株式会社曾我統一氏より銀行員並の所得を得ることを目標とした現状経営する農場ごとの収益性の分析がなされた後、資金繰り、収益性を踏まえた増頭シミュレーションが披露されました。

栗木貢男氏の講評では、手堅い経営状態が何われ営業部の存在が重要とのコメントがなされました。

「塾で議論した養豚経営ビジネスモデルのたたき台を提案」と題して、石関獣医師より農場立地の選択、AI・AOの採用、隔離馴致舎の設置、床下構造、獣医師のサポートを組み込んだ「病気と関わらない養豚を目指す」、「飼料・栄養にもっと深くかかわる」、豚舎フロー、空調、壁・天井・床構造、群編成を考慮した「施設・設備はその時点の最新情報を基に」、「環境対策は経営継続に不可欠」、「週休2日制の採用」を盛り込んだ規模別のビジネスモデルが未定稿のテキストに沿って解説されました。

記念講演では、「変化が迫られる養豚産業の現状分析と改革への試案」と題しての有限会社山水園代表取締役竹延哲治氏の講演では、疾病をコントロールすることから養豚経営が始まることを前提に、1) 海外の繁殖性の高い品種の導入、2) 繁殖農場と肥育農場が分離された生産体制の確立、3) 枝肉重量の引き上げ、4) 費用対効果の徹底、5) 飼料大量生産による飼料費低減、6) と畜場の効率化によるコストダウンがなされることによる国際化への歩みの提言がなされました。

ご列席頂いた方々への感謝の意を表した松村昌雄理事長の閉会挨拶で共有シンポジウムは終了いたしました。
(山田)

凝集剤「ゆめブロック2」について

専務理事 矢嶋 隆次

凝集剤のメーカーであった興南化学工業(株)の廃業により、新規に(株)アセラを採用いたしました。興南化学工業(株)と原料仕入れ先が同一で、その社員が(株)アセラに移動したことを聞き、組合員の皆様へのご迷惑が最小限に抑えられると判断してのことです。

特に凝集剤は溶け具合が使用量にも影響しますので、原料ソースが興南化学工業(株)と同一であることは大きな変化がないということで、我々も安心して販売できますし、組合員の皆様も気を使うことなく新製品に移行できます。また、興南化学工業(株)の社員は組合員の汚水をよく知っていますので、今後のサービスを考えると豚事協の組合員にとっては好都合と考えました。

興南化学工業(株)とお付き合いを初めて価格も安く、興南化学工業(株)の時は460円/kgで販売していましたが、(株)アセラに代わってからさらに安く販売することが可能となりました。この価格はかなり大量に使用する生産者でもあまり提示されない価格ではないかと思います。皆様にお届けする価格は1円でも安く、と常に考えておりますが、生産価格に直結しない凝集剤を、ここ数年で100円/kg以上も安くできたのは豚事協という皆様が団結した組織で購入しているからと思っています。

凝集剤は、粉末を重量比で0.2%水に溶かし、これを汚水の中に1～5%程度混入してフロックを形成させるのが一般的です。皆さんからときどき『フロックの形勢が悪い』との問い合わせを受けます。原因は主にSSの濃度が変化した時に起こります。

フロックの形成が悪い時は、皆様はたいいてい濃度を濃くして汚水に投与されているようですが、見た目の汚水の濃度だけでは投与量を判断しきれません。

調子のいい時のSSの測定をしておいて覚えておいていただくと、フロックの形成が悪くなった時に濃度を濃くするのが良いか薄く添加した方が良いか判

断が早くできます。

『凝集剤』という名称から、『添加量を多くすればより強固なフロックができる』と思っている人が多いようですが、凝集剤は、それを多く使用することにより分離剤にもなります。多すぎる添加はかえってフロックの形成を悪くします。濃度を上げたのにフロックの形成が悪い、というときは反対に濃度を下げてみることをお勧めします。これで問題解決につながった方が結構あります。

しかし、混合される豚(種豚・子豚・肉豚など豚のサイズ)の糞尿によって、また食べるもの(マッシュカペレット・クランブル飼料か)の変化、そして気候変化(大雨が降ったなど)により、汚水のSSやBODは変化します。濃度を変えなければならなくなったときは(株)アセラに汚水を送って最適な番手を確認することをお勧めしますが、(株)アセラで番手を確認してもらうにも、汚水の送付日数や検査日数を考えると結果が出るまで10日ほどかかりますので、緊急の時は間に合いません。合わなかったときの状態を覚えておくと、とりあえずは対応できますので、そのときの汚水の状態もよく記録しておくようにしてください。

豚事協ではアニオン系とカチオン系の二種類を販売しております。投入する汚水の陽イオンが多いか陰イオンが多いかで、アニオンが効果を出すかカチオン系が適するのかが決まります。一般的には、配・混合飼料はカチオン系、液餌給与はアニオン系も使うようです。なぜそうなのかはわかりません。

豚は毎日同じ物を食べるので、使用する番手は一度決まると殆ど変更になることはありません。現在使用されていない組合員も、(株)アセラに汚水を送付して番手を決めてもらい、是非豚事協の安い凝集剤をお試しください。決して“安かろう悪かろう”ではありません。

Topics

縦型コンポストの優位性と 急速発酵堆肥化装置 『コンポ富士』について（１）

三友機器株式会社 名古屋営業所 環境部 リーダー
板橋 豊

縦型コンポストとは

ご存じの方も見えると思いますが、コンポストというのは有機物を微生物により分解した堆肥（肥料）のこと、或いは堆肥化の意味です。それが転じて堆肥化装置の意味に使用されています。堆肥というのは文字どおり、積み上げて（堆積して）肥料にしたものという意味です。以前は農家で、わらや人や家畜の糞尿、生ごみを積み上げて自然に発酵させ、畑の肥料として利用したものです。このようにコンポストは広い意味に使われていますが縦型コンポストとは原料（畜糞）を投入するタンクが縦長で、主に水平方向に攪拌する堆肥化装置を指します。これに対して横長のタンクの横型コンポストもありますが畜糞の堆肥化装置は縦型が多く使われています。

縦型コンポストの優位性

(1) 少ない日数での堆肥化

縦型コンポストに限ったことではありませんが、強制的に空気を送り攪拌する事で微生物の活動が発酵になり、発酵が促進されて堆肥化に掛かる日数が短くて済みます。投入原料の水分率にもよりますが、通常7日から10日間程度の滞留期間で生糞から製品までの一貫生産が可能です。

(2) 設置スペースが小さい

縦型コンポストの特徴としてタンク上面より原料を投入し、タンク下面より製品を取り出す事により設置スペースを小さくする事が出来ます。攪拌用の駆動装置、送風機、排気ファン等はタンク下部とタンク上面に設置して、タンク径のスペースに納める事により省スペースになります。又、据付場所に合

わせて投入口、取出し口方向を自由に配置することが可能です。

(3) 悪臭の拡散を少なくする

縦型コンポストの多くはタンクが密閉式ですので、原料の臭気を外へ出しにくい構造になっています。又、排気の臭気に対しては排気配管を脱臭装置等に接続する事も可能です。当社も顧客のニーズに合った各種脱臭方式をご提案しております。主な脱臭方式としまして、土壌式、チップ式、水槽式、シャワー式等有ります。（写真）複数の脱臭方式を組み合わせで行う場合もあります。

(4) 騒音の拡散を抑える

騒音に対してもタンクが密閉式ですのでタンク内の音を外へ出しにくい構造になっています。外付けの送風機はオプションにて防音ボックスの取り付けも可能です。

急速発酵堆肥化装置『コンポ富士』

当社には縦型密閉式コンポストの急速発酵堆肥化装置「コンポ富士」SKシリーズがあります。元々は家畜の糞尿（鶏糞、豚糞、牛糞）を堆肥化処理する装置として開発されましたが、現在では汚泥、食物残渣や血餅などにも用途を広げています。

縦型コンポストの代表例として当社の「コンポ富士」の仕様を簡単にご説明します。

(1) タンク容積

現在、「コンポ富士」はタンク容積が約11m³から100m³まで、単槽式が8機種と2槽式が3機種の11もの機種があり、多様なニーズに対応しています。2槽式とは、タンクが上下2槽構造になっており、一

次発酵したものを下の槽に落として二次発酵させるタイプですが、処理量に対して装置が大きくなり、単槽式に比べてコストも高くなるため現在では余り需要がありません。

タンク容積100m³の「コンボ富士SK-100」は業界最大の容量です。(写真) 又、別途ご相談になりますが現状の大きさの範囲内であれば、タンク径やタンク容積の特殊仕様にも対応可能です。

(2) 投入方法

「コンボ富士」は正面の投入装置のバケットへ原料(畜糞)を投入するだけです。水分率75%程度であれば収集した糞を直接投入が可能です。バケット幅は機種にもよりますが1800mmから2700mmに対応しています。投入口はタンク上面に有りますが、投入装置が自動で上昇して投入口の蓋も自動で開き、投入後は自動で下降して元の位置に戻ります。上昇させ

る操作もリモコンにて操作できますので、作業員1名にて投入作業が可能です。又、設置状況により上面の投入口への直接投入も可能です。その他にコンベア投入等の特殊仕様にも対応可能です。

(3) 取出し方法

取出し口にはダンパーと呼ばれるスライド式の開閉蓋が有り、この蓋を開くことによりタンク内の製品を取出します。取出した製品はシュートによりそのまま下へ落としてローダーですくい上げて堆肥置き場へ運ぶ方法が多いですが、コンベアを使用して堆肥置き場へ送る事も出来ます。ダンパーの開閉は手動で行いますが、制御盤から取出し口が離れていて見えない場合は、別途の操作ボックスにて取出し口を見ながらの操作が可能です。ダンパーは任意の位置にて止める事が出来ますので取出し口の開口の大きさも調整可能です。



土壌式脱臭



チップ式脱臭



シャワー式脱臭



水槽式脱臭



コンボ富士SK-100

Topics

「ゆめシリーズについて」 第1回

専務理事 矢嶋 隆次

ゆめシリーズの基本的な考え方は次の通りです。

- ①配合の基礎となるとうもろこしは全粒粉碎されたものをそのまま配合する。
- ②単純配合でそうこう類は配合しない（クランブル飼料や種豚用は除きます）。
- ③ビタミン・ミネラルは必要なものをプレミックスで添加する。

まずゆめミルク5の原材料表示表（表1）を見てみましょう。とても簡単です。同じような時期に給与するメーカーの飼料の一例が表2です。コメントはしません。表1と比較して、ご自身で判断してください。アスペリギルスオリゼーとアスペリギルスニガーは麹菌の製剤だと思います。

それぞれの原料の役目は次のようになっています。はじめに脱脂粉乳ですが、言わずと知れた動物質性飼料原料の代表格です。嗜好性も栄養価も高いので子豚用飼料に好んで配合される原料です。しかし高価で人間の食べ物でもあるので、欧米では飼料原料としては使いません。ゆめシリーズでも『飼料は飼料原料としてのものを配合するのが原則』と考えて使用量を減らす方向で進めています。

試しに脱脂粉乳だけを与えた場合、子豚の栄養価は足りるのでしょうか。主な栄養素について普及率の高いケンボローの要求量（表3）で比較してみましょう。

含硫アミノ酸とはメチオニンとシスチンを合わせたものです。ご覧の通り、エネルギーもアミノ酸も十分ケンボローの要求量を満たします。ビタミンやミネラルさえ追加してやれば、脱脂粉乳だけで十分ということになります。しかし1袋（20kg）5,000円以上の高価な飼料となります（ゆめミルク5・1～3月マッシュ価格は3,141円/袋）。しかも吸湿性が高

く、とてもハンドリングの悪い、扱いにくい飼料となります。

ミルクに使用する動物質性飼料原料は脱脂粉乳・乾燥ホエー・人工乳用魚粉など、すべて高価で、吸湿性が高く給餌するには扱いにくい原料ばかりです。子豚も食べるのに苦労します。このため、コストダウンと同時に扱いやすい飼料にするため、穀物や植物性油かす類を添加していきます。魚粉は、アミノ酸のバランスが良くエネルギーもあるのですが、今は脱脂粉乳よりもかなり高価な原料となっていましたので、使用量は極力減らす方向にあります。乾燥ホエーは子豚が好む原料ではありませんので多くは配合できません。離乳期の子豚に必要な乳糖を補完するために配合しています。単体の乳糖とホエーに含まれる乳糖のどちらが安く上がるかでホエーの配合率が決まります。

次に、穀物の代表格である飼料用とうもろこしや大豆由来の原料（エクストルーダ処理大豆やきなこ）について、主な栄養成分とケンボローの要求量を比較してみましょう（表4）。

とうもろこしだけの飼料にすると今度は栄養価が不足してしまうことがわかります。このため、大豆や植物性油かす類の代表格である大豆粕を利用した商品を添加して、栄養を補うこととなります。ただ、大豆をふくむ豆類を原料とした飼料原料は、トリプシンインヒビターなどの幼動物に下痢を起こさせる物質が含まれますので多くは配合できません。ゆめミルク5に使っているエクストルーダ処理大豆やきなこは加熱することで、酵素処理脱皮大豆油かすは発酵処理することによって、トリプシンインヒビターなどの生体に悪影響を与える物質が極力少なくなる加工をしています。ゼロにはなりません。その

ため豆類や豆粕類の配合量は限られてきます。

そこで、高価なのですが動物質性飼料を一定量配合しなければならなくなります。脱脂粉乳と魚粉は栄養価と嗜好性を維持するため、ホエーは乳糖の補完のためが一般的です。ただ、欧米では高価な原料である魚粉についても削減が進んでいます。

ちなみにゆめミルク5の栄養価は表5のようになります。アミノ酸はケンボローの要求量より高くなっています。ゆめミルク5は、もともと脱脂粉乳などの動物質性飼料原料を多くする配合となっていま

すのでリジンの量が多く、比例して含硫アミノ酸やスレオニンなどの他のアミノ酸も多くなります。アミノ酸の量が多いことはコストアップにつながりますので、ケンボローの要求量までアミノ酸のレベルを下げたいと思っています。

ゆめミルク5（哺乳期子豚用飼料）は、肉豚になった時の赤肉生産のための基礎を作る時期ですので、“アミノ酸は多く、エネルギーはそこそこに”が基本です。ただ呼吸器疾病の多い養豚場はエネルギーを高くすることが必要となります。

表1 ゆめミルク5の原材料表示表

原材料の区分	配合割合	原材料名
動物質性飼料類	45%	脱脂粉乳、魚粉、乾燥ホエー
穀類	37%	とうもろこし、エクストルーダ処理大豆
植物性油かす類	2%	酵素処理脱皮大豆油かす
その他	16%	ぶどう糖、特定動物性油脂、乳糖、炭酸カルシウム、食塩

(注) 1. 原材料名は原則として配合割合の大きい順である。
2. カッコ内の原材料は原料事情等により使用しないことがある。

表2 メーカーの飼料の一例

原材料の区分	配合割合	原材料名
穀類	46%	加熱処理小麦、パン粉、加熱処理とうもろこし、膨化脱皮大豆、大麦麦芽、(小麦粉)
動物質性飼料	33%	乾燥ホエー、魚粉、脱脂粉乳、血しょうたん白、(濃縮ホエーたん白)
植物性油かす類	3%	酵素分解脱皮大豆粕、小麦グルテン酵素分解物、大豆油粕
その他	18%	乳糖、ぶどう糖、特定動物性油脂、植物性油脂、砂糖、フラクトオリゴ糖、炭酸カルシウム、リン酸カルシウム、食塩、乳酸、クエン酸、パン酵母、アスペリギルスオリゼー、アスペリギルスニガー、ケイ酸、ベントナイト

(注) 1. 原材料名は原則として配合割合の大きい順である。
2. カッコ内の原材料は原料事情等により使用しないことがある。

表3 ケンボローの要求量

項目	栄養素	DE (Kcal)	リジン (%)	含硫アミノ酸 (%)	スレオニン (%)	非フィチンリン (%)
脱脂粉乳		3,720	2.65	1.13	1.52	0.98
ケンボロー、7 kg 以下		3,610	1.62	0.94	0.97	0.42

表4 飼料用とうもろこしや大豆製品の主な栄養成分とケンボローの要求量の比較

栄養素	DE	リジン	含硫アミノ酸	スレオニン	非フィチンリン
とうもろこし	3,560	0.25	0.32	0.28	0.34
ケンボロー、7 kg 以下	3,610	1.62	0.94	0.97	0.42
きなこ	4,430	2.39	1.06	1.47	0.30

表5 ゆめミルク5の栄養価

項目	栄養素	DE (Kcal)	リジン (%)	含硫アミノ酸 (%)	スレオニン (%)	非フィチンリン (%)
ゆめミルク5 (6-7 kg)		(3,920)	1.75	1.01	1.05	0.69
ケンボロー (7 kg 以下)		3,610	1.62	0.94	0.97	0.42



第8回女性部セミナー・お料理教室で使用したレシピのご紹介です。

豚こまと牛蒡・レンコンの炊き込みご飯

●材 料（4人分）

豚こま	200 g
牛蒡（小）	1 本
レンコン（小）	1 節
三つ葉	2 分の 1 束
針生姜	5 g
米	2 合
昆布出汁	300cc
薄口醤油・酒	各 大さじ2

●作り方

- ①米はといで30分吸水して、ザルに10分きる。
- ②昆布出汁に薄口醤油酒で味を付けた合わせ

出汁で、ご飯を土鍋で炊く。

- ③牛蒡半分とレンコンは小さめの薄切り、残りの牛蒡はおろしておく。
- ④豚肉と薄切りにした野菜を炒め、醤油・酒・みりんできれいにし、おろし、牛蒡と針生姜を合わせる。
- ⑤8分くらいご飯が炊けたら汁気をきった上を乗せ、10分蒸らす。
- ⑥最後に三つ葉を散らす。



豚事協の年間行事

理 事 会

第 1 回	平成29年 1 月21日（土）（東京）
第 2 回	平成29年 2 月24日（金）（東京）
第 3 回	平成29年 4 月14日（金）（東京）
第 4 回	平成29年 7 月21日（金）（東京）
第 5 回	平成29年10月20日（金）（東京）

支 部 会

中 部 支 部	平成28年 5 月19日（金）（名古屋）
関 東 支 部	平成28年 6 月 9 日（金）（東京）
北 海 道 支 部	平成28年 7 月 7 日（金）（札幌）
東 北 支 部	平成28年 8 月25日（金）（盛岡）
中 四 国 支 部	平成28年 9 月22日（金）（松山）
九 州 支 部	平成28年10月13日（金）（熊本）
沖 縄 支 部	平成28年11月17日（金）（那覇）

女 性 部

第9回女性部セミナー 平成28年 6 月 3 日（土）～4 日（日）（予定）

そ の 他

海外視察研修 平成29年 9 月オランダ・フランス（予定）

※青字は平成29年 3 月 1 日以降の行事となります。都合によっては変更・中止となる可能性もありますこと、ご了承下さい。

編 集 後 記

「五輪の年には文化省」というシンポジウムに参加してきました。文化芸術の振興を推進し、文部科学省の下に設置されている文化庁での政策では限界があるという事で、文化省を設立しようという動きがあり、その一環で開催されました。

正直、チケット代が1,500円と破格で、いろいろなものを見る事が出来るし、司会の堺正章さんを見てみたいというミーハー心満載で向かい、文化省設立の為のシンポジウムという意識は低いま、舞台で行われる演目を楽しみに席に着きました。その為、最初の30分は政治家や文化・演劇・音楽に携わる人の話があり、この会はかなり真剣でさまざまな人が絡んでいるという事に、遅ればせながら気づきつつ鑑賞しました。

まずは能の舞の部分を抜粋して行われたのが王巻でしたが、やはり限られた時間内でのパフォーマンスだった事と、能の一節を歌ったのが劇団員だった事もあり、そちらの違和感ばかりが目に入り、せっかくの舞が少々見劣りした事が残念でした。その他はクラシックで小編成の楽団でしたが、分りやすい音楽で素晴らしいと思ったのと、朗読劇は劇団員の方の実力が思う存分発揮され、単純ながらも考えさせられるテーマで、今回のシンポジウムにはぴったりの内容だったかと思っています。最後の創作ダンスも、ただ楽しく音楽に合わせてという物ではなく、テーマがあつての芸術作品で、「文化省」設立の幕開けにはぴったりの感じでした。

芸術作品は、やはり何度か見てみると、面白さを感じるには至らないと痛感しました。「文化省」が評価され、設立になった暁には、芸術作品に疎い一般人でも気軽に芸術に触れる機会が沢山設けられたらいいなと思っています。（久）